

# 繁華街の機能・空間集積と地域コミュニティの相補関係と

## まちの持続性 その1

日大生産工(院) ○赤石 健太 日大生産工(院) 馬場 祐希  
日大生産工(院) 川原 隆平 日大生産工 北野 幸樹

### 1. はじめに

現在の日本は、新たな建物の高層化や店舗運営者の高齢化により、繁華街で培われてきた地域コミュニティが減少傾向にある。繁華街が地域居住者の生活やコミュニティにどのように影響し、相互に補完しあっているのかを考察することは、地域の持続性やまちづくりにとって極めて重要である。これらにより、地域コミュニティ機能の維持は大きな課題となっている。地域一帯を繁華街とする際、まち全体で活気を生み出すには、商業空間以外の要素や他者との関係性が重要である。

繁華街は、郊外での大型店舗の進出やコロナ禍での店舗経営の困難化により衰退が進んでいるが、繁華街は単なる買い物の場所に留まらず、長い時間をかけて形成された地域コミュニティの一環であり、地域資産としての価値を再評価して、繁華街の今後の役割や在り方について検討することが求められている。

### 2. 調査概要

調査は、令和5年6月から8月までの期間で、新宿ゴールデン街から2キロ圏内の地域居住者を対象とし、アンケートを送付・回収するアンケート調査を実施した。上記の対象地域を図1に示す。

新宿ゴールデン街で店舗運営者1名にヒアリング調査を行い、新宿ゴールデン街での経験や新宿区のまちづくりへの取り組み、想いや将来像を調査し、繁華街の存在意義や持続性について考察する。

### 3. 調査対象地域の概要

#### 3.1 新宿ゴールデン街の概要

新宿ゴールデン街は、太平洋戦争後にできた闇市が起源であり、移転や廃業などの歴史を経て飲屋街として再出発した。その後、文化人が集う場所として知られるようになったが、再開発や不審火騒ぎ、景気後退などによ

り閉店が相次いだ。平成4年に新借家法の施行で、若者達が新規店舗を求め入店し、組合やオーナーらの団結もあり、再び活気づいた。

#### 3.2 新宿ゴールデン街周辺の地域居住者の概要

アンケート回答者の職業は会社員が一番多く、定年退職された方も多し。勤務地は新宿区内が一番多い。調査時までの居住年数は20～24年、40～44年、50～54年が一番多く、出生時から新宿区内に住む人が多い(表1)。

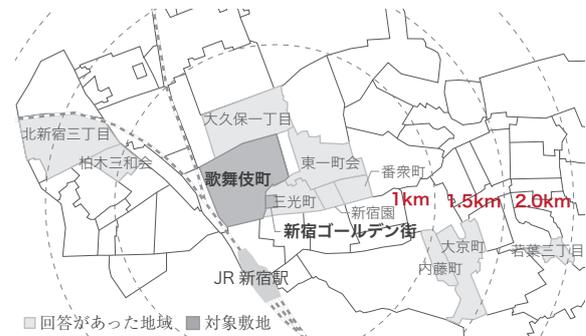


図1 対象地域

表1 新宿ゴールデン街周辺の地域居住者

性別		居住年数		年齢		以前の居住地	
男性	20	1~4	0	20~24	1	新宿区	8
女性	24	5~9	4	25~29	0	杉並区	2
無回答	2	10~14	3	30~34	0	中野区	1
合計	46	15~19	1	35~39	1	千代田区	1
		20~24	6	40~44	2	渋谷区	1
		25~29	1	45~49	4	中央区	1
		30~34	1	50~54	3	練馬区	1
		35~39	1	55~59	4	町田市	1
		40~44	6	60~64	4	日野市	1
		45~49	2	65~69	6	小平市	1
		50~54	6	70~74	5	千葉県	2
		55~59	1	75~79	4	埼玉県	2
		60~64	1	80~84	5	神奈川県	1
		65~69	5	85~89	3	福岡県	2
		70~74	3	90~94	2	合計	25
		75~79	3	95~99	0		
		80~84	0	合計	44		
		85~89	0				
		90~94	0				
		95~99	0				
		合計	44				

Study on Relationship between Functional and Spatial Concentration of Downtown and Complementarity of Local Community and Sustainable of Town Part1

Kenta AKAISHI, Yuki BABA, Ryuhei KAWAHARA and Koki KITANO

#### 4. 新宿ゴールデン街に対する意識

新宿ゴールデン街周辺の地域居住者に対し、新宿ゴールデン街周辺の「交通アクセス」「買い物・利用」「賑わい」「景観」「安心・安全」の五段階評価による満足度について(図2-1)、「交通アクセス」は、評価5が圧倒的に多く、新宿ゴールデン街周辺の居住地域に公共交通機関が十分に整備されているからだと考えられる。「買い物・利用」は評価5、「賑わい」は最も多く、評価4であり、新宿ゴールデン街周辺にお店や住居などが密集しているからだと考えられる。「景観」は評価3、「安心・安全」は評価3が最も多く、様々な職種や年齢、性別の方が集まり、お酒を飲むなど、夕方から深夜にかけて賑わう街であり、様々な危険なイメージを持つ方が多いことが、このような結果をもたらしたと考える。上記五項目を総評した結果は、評価3が最も多いが、評価4と評価5の割合を足すと、51.2%であり、半数以上が満足している。

アンケート回答者の新宿ゴールデン街への交通手段は徒歩が圧倒的に多かった(図2-2)。徒歩での移動時間は15分以内が多いことから、新宿ゴールデン街への訪問者は、近隣に居住していると推測できる。

新宿ゴールデン街周辺の地域居住者に新宿ゴールデン街の利用頻度についてのアンケート結果は、利用頻度が一度もない方が57.2%で半数以上であった。

利用人数は、約半数が複数人での訪問であり、単独利用は8.3%である(図2-3)。

新宿ゴールデン街と歌舞伎町の今後の必要性についてのアンケート(図2-4)では、「新宿ゴールデン街と新宿ゴールデン街以外の歌舞伎町の両方が大切であり、これからも続いてほしい」が一番多く、50%以上であり、次いで、「新宿ゴールデン街は大切であり、これからも続いてほしい」は19.4%であった。

「商業施設以外の新しい施設・空間がほしい」と回答した居住者の具体的な回答(表2)では、スポーツ施設や子どもの遊べる施設、緑の多い公園などが挙げられた。この結果は、新宿ゴールデン街周辺の満足度の「景観」や「安心・安全」の評価と繋がっており、景観では自然の多い落ち着いた空間や安心・安全から新宿ゴールデン街へ子供を安心して連れていくことのできる施設が必要とされていると考える。

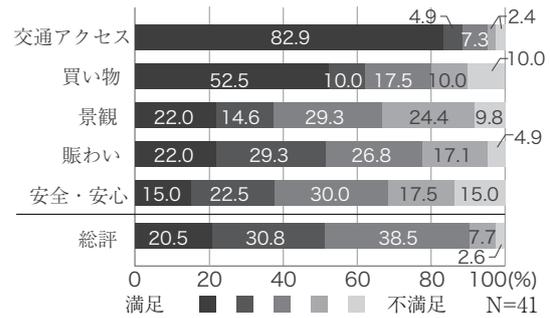


図2-1 新宿ゴールデン街周辺の満足度調査

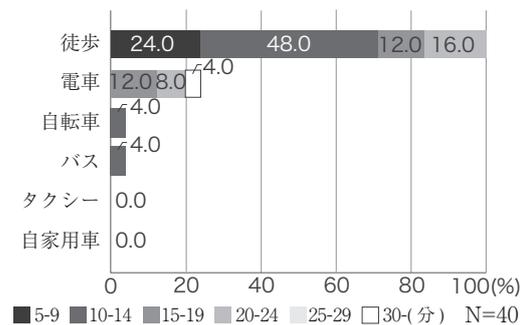


図2-2 新宿ゴールデン街への交通手段と移動時間

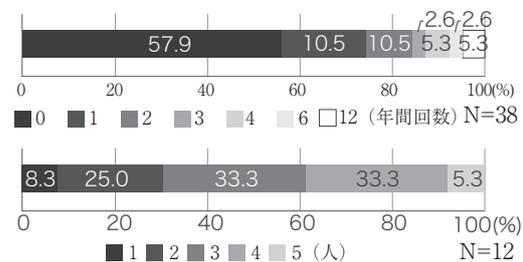


図2-3 新宿ゴールデン街の利用頻度と人数

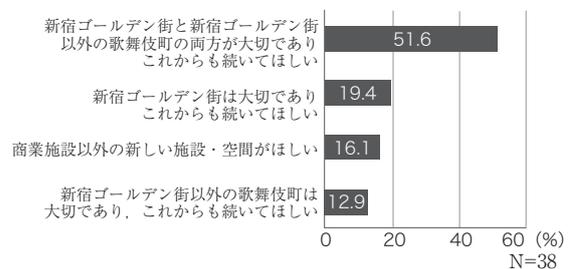


図2-4 新宿ゴールデン街と歌舞伎町の存続性

表2 居住者の求める商業施設以外の新しい施設・空間

コミュニティセンター文化、芸術的施設	コミュニティセンター・公園
飲食のできる会議室	安全なところ、景観がいいところ
スポーツ施設、緑の多い公園	場所的には無理 ありえない
スポーツ施設、子供の遊べる施設	安心して歩けたり、行けたりする場所

## 5. 新宿ゴールデン街の利用目的

新宿ゴールデン街周辺の地域居住者へ新宿ゴールデン街、新宿ゴールデン街以外の歌舞伎町、また新宿ゴールデン街と新宿ゴールデン街以外の歌舞伎町の両方の利用目的についてアンケートを行った(図 3-1, 2, 3, 表3)。以下に結果をまとめる。

新宿ゴールデン街の利用目的は、「飲食」が一番多く、「飲食」や「買い物」以外では「通過」の割合が高い。次に新宿ゴールデン街以外の歌舞伎町での利用目的は「飲食」が一番多かった。

新宿ゴールデン街と歌舞伎町の利用目的を比較すると、新宿ゴールデン街は通過することに利用されることが多く、歌舞伎町は映画館や区役所などへの利用が多かった。また、新宿ゴールデン街と歌舞伎町を同時利用する時の回答から、同時利用することで居住者が新宿ゴールデン街に訪れる機会ができると考えられる。

## 6. 新宿ゴールデン街の環境

現在住んでいる場所に住み続けたいかの回答では、「ずっと住み続けたい」が50%以上であり、「転居したい」と回答した人はいなかった(図4)。

新宿ゴールデン街の位置付けとして「昔はまちの中心であったが今はあまりにぎわっていない」の回答者が一番多く、半数以上であった。時代や環境など様々な変化を経たからではないかと推測される(図5)。

新宿ゴールデン街へ求める環境についての回答では、図6の結果から憩う場・楽しむ場・リラックスする場が求められており、多世代や異文化交流ができる場が望まれていると考えられる。「リモートワークが出来るような環境・空間」の回答数が少ないことは、新宿ゴールデン街が飲み屋街であることからと推測できる。「新宿ゴールデン街がどのような環境であって欲しいか」の具体的な意見(表4)では、多世代、多国籍の人々が集まる場を希望し、同じ趣味を共有できる出会いの場も求めている。女性や子供も利用しやすく、安全な環境整備が必要とされている。これは、実態調査で「安心安全」が低い満足度であることから、気軽に訪れることができる場を求めていると考える。

表 3 新宿ゴールデン街の主な利用目的

飲食店を見て回る	買い物・遊興・飲食
役所の利用経路	飲み屋に行く
利用しない	駅などに出るときに、遊歩道を利用するのみ
飲食	飲食
通過するだけ	利用した事はありません。
映画	商店への立ち寄り
買い物	年に一回西の市で旧友と親交を深める
どんな店があるか見て歩く	バー
飲酒	

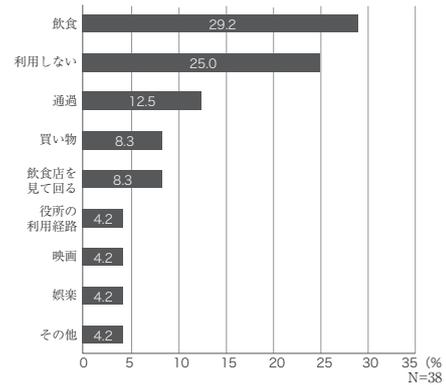


図 3-1 新宿ゴールデン街の利用目的

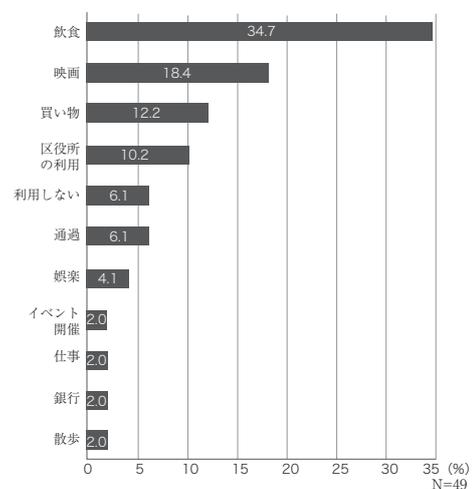


図 3-2 新宿ゴールデン街以外の利用目的

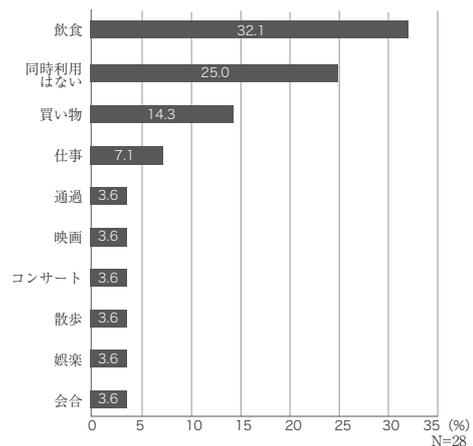


図 3-3 同時利用の利用目的

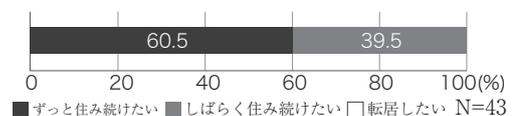


図 4 現在住んでいる場所に住み続けたい

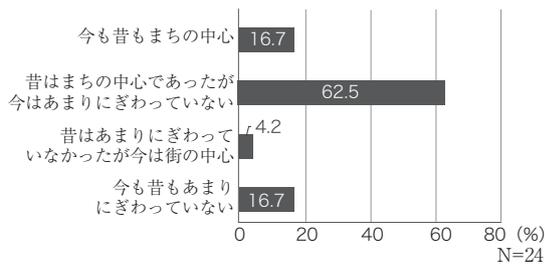


図5 新宿ゴールデン街の位置付け

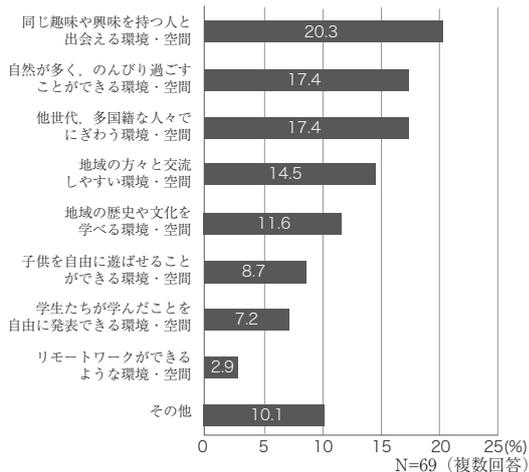


図6 新宿ゴールデン街に求める環境

表4 新宿ゴールデン街に求める環境の具体的な意見

限られた場所、スペースがなく一般に広く開放されたコミュニティセンターなどの空間にしたい。
昔ながらの風情を守ってほしい
人種、国籍に関わらずにぎわう街であってほしい もっときれいなまちになってほしい。
治安の確保をしてほしい
家族と買い物をする場所であってほしい
家族と食事を楽しむ場所であってほしい
ゴールデン街独自の雰囲気大切に活気ある商店街を形成してほしい。一見さんでも入れ垣根の低い商店街と街に到るきれいなアプローチ(道など環境)の整備をしてほしい。
最近のゴールデン街には外国人の観光客も多く、その独特な雰囲気を楽しんでいるように見える。全てを新しくしてしまうとその街独特の良さがなくなってしまうと思う。そこで生活している人たちの意見を聞いて、開発を進めてほしいと思います。どこにでもあるような街はほしくない。
それぞれの人の趣味が生かせる街
家族と食事等ができるような場所であってほしい。
火災に注意してほしい。
とにかく酔客のマナーを律してほしい
子ども行きやすい街になって欲しい。
ゴールデン街は飲み屋のイメージがあり、私はあまり好まないとは思わないのです。
人が集まり何かが創造し生まれる場所、出会いの場所であってほしい
気軽にオープンな場所であってほしい
今のままでいい
一般の人が行く街ではない。外国人、芸術家が行ってほしい。
趣味の世界を追求した、人が集まる活気のある場所。来る人を拒まないところであって欲しい。
幅広い年齢層に支持される街であり続けてほしい。
女性や子ども(学生)も安心して歩ける場所であってほしい。
気軽に飲める場所が良い

## 7. まとめ

本研究で得られた新宿ゴールデン街の価値と持続的なまちづくりについて得られた基礎的知見を以下に整理する。

1) 新宿ゴールデン街の満足度は「交通アクセス」「買い物・利用」「賑わい」の評価が高いため、新宿ゴールデン街はアクセスしや

すく、日常的な買い物の利用が環境・空間であり、それにより賑わいが生まれている。

新宿ゴールデン街の満足度が低い値となったのは、「景観」、「安心・安全」である。新宿ゴールデン街の歴史的背景や様々な人が夕方から深夜にかけて賑わう街であり、公共交通機関が整備されている反面、危険が潜んでいる。新宿ゴールデン街の持続性には、「安心・安全」の満足度を高める必要がある。

ただ、総評として、半数以上が新宿ゴールデン街を全体的に満足している。

2) 新宿ゴールデン街への交通手段は徒歩が多く、移動時間も15分以内がほとんどであることから、新宿ゴールデン街の近隣居住者が新宿ゴールデン街に訪れていると推測できる。

3) 新宿ゴールデン街の利用頻度は、半数以上が利用したことがない。また、利用する人数については、約半数が複数人で訪れており、一人での利用はかなり少なかった。これは、2)で述べた「安心・安全」の満足度が低い点と3)で述べた移動時間が関係している点と関係しているのではないかと考える。

4) 新宿ゴールデン街を利用する人は、飲食や買い物という日常生活に深く結びついた行動と歌舞伎町にある映画館や区役所などへの利用のため通過している。新宿ゴールデン街と歌舞伎町を同時利用することで、居住者が新宿ゴールデン街に訪れる機会が生まれる。

5) 新宿ゴールデン街周辺の地域居住者は、現在住んでいる場所に住み続けたい方は半数以上であり、転居したいと考える方は少ない。これは、1)の全体的に評価が高い点などが関係していると考えられる。

6) 新宿ゴールデン街は、昔はまちの中心であったが今はあまりにぎわっていないと考える人が半数以上であった。時代や環境など様々な変化を経たからではないかと推測される。

7) 新宿ゴールデン街に対する新宿ゴールデン街周辺の地域、落ち着いた空間や多世代・多文化交流できる環境・空間や子どもや女性も安心して過ごせる場所を求めている。

## 参考文献

- 1) 宮尾直樹, 北野幸樹: 繁華街の機能・空間集積と持続的コミュニティに関する研究その4, 日本大学生産工学部第53回学術講演会概要, pp. 481-484, 2022. 12
- 2) 川原隆平, 北野幸樹: 繁華街の機能・空間集積と持続的コミュニティに関する研究その5, 日本大学生産工学部第54回学術講演会概要, pp. 485-488, 2022. 12
- 3) 荻野汐香, 北野幸樹: 繁華街の機能・空間集積と持続的コミュニティに関する研究その6, 日本大学生産工学部第54回学術講演会概要, pp. 489-492, 2022. 12